



樹 姉 ば よ う

No.125
2015.3

慈悲喜捨

春の野に董つみにと
来し我そ野をなつかしみ
一夜寝にける

『万葉集』山部赤人
春の野に、董を摘みに来た
私は、紫色に染まったその野
の美しさに心引かれてしまっ
た。立ち去り難くぐずぐずし
ているうち、野で一晩過こし
てしまった。「なつかし」は「心
引かれる」の意。全体で、「野
が心引かれる様子であるの
で」の意となる。

暖かくなり、野や畦にはタ
ラが芽吹き、ツクシが顔を出
し、タンポポが咲き出してい
る。歌にもあるように、スミ
レもそここに紫の可憐な花
を咲かせている。

赤人もそんなスミレに心惹
かれ、長い時間野にとどまっ
ていたのだらう。この季節は、
野や畦ばかりでなく、歩道の
片隅や駐車場の端には、イヌ
ノフグリやオダマキ、スズナ、
ゴギョウなども咲き、ふとし
たところで心を和ませてくれ
る。芭蕉も山道を歩きながら、
ふと目にとまったスミレに心
惹かれたのであらう。

山路きて

なにやらゆかし 董草

『野ざらし紀行』松尾芭蕉
三日には、卒業証書授与式

が行われる。卒業生は、四〇
三名。新たな門出に向かって
旅立っていく。田山花袋の「常
に新しいといふこと」の一文
を紹介し、贖としたい。

「新しさに向かつて波打つ
心は、どんなにいろいろなも
のを浮かび上がらせるのだら
う。そこには自分ばかりが味
はふやうにできてゐる楽しさ
もあれば、限り知られぬ不可
思議に対する恐ろしさもある。
美しい花も咲いてゐると
同時に、凄まじい嵐も潜んで
ゐる。暗い影もある。麗しい
光もある。絢爛な更紗模様
に似た美しい人の情もあれば、
絵具をそのままそこにあけた
やうな若い心の姿もある。新
しさといふことの楽しさ、そ
れを思つただけでも、誰でも
の心が微かにふるへずにはゐ
られないでせう。

何も考へるには及ばない。
何も恐れるには及ばない。新
しさといふ心の旗と真面目さ
といふ意志の剣とをかざして
ゐさへすれば、それで何も憂
へることはないのである。前
途は洋々として春の如しであ
る。

新しさからあらゆることが
始まる。新しさには力がある。
湧出しても湧出しても尽きな
い力がある。」

教頭 尾内 正彰

巣立ちの日に

樹徳中学校・高等学校校長

野口 秀樹



今年もまた、樹徳を巣立つ若者たちを笑顔で見送る時がやってまいりました。三年間、あるいは六年間を樹徳で過ごした卒業生の皆さんは、どのような成長を果たせたでしょうか。きっとそれはこれからの活躍で見せてもらえることでしょう。私はそれを楽しみにしております。

さて、卒業式で私は式辞を読みます。今回はその内容を文字にご紹介いたします。

式 辞

「いはばしる 垂水の上の
さわらびの 萌えいづる
春に なりにけるかも」

(万葉集巻八 志貴皇子)

春の光を受け、大地のそこかしこに生命の胎動を感じさせる今日の佳き日に、多くのご来賓の皆様にご臨席賜り、明照学園樹徳高等学校卒業式が盛大に挙行されますこと、誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。ご来賓の皆様、誠にありがとうございます。

さて、只今卒業証書を手にした四〇三名の卒業生諸君、ご卒業おめでとう。

諸君の一人ひとりの胸の内に格別の感慨があるかと思えます。人生の意義ある節目の一つとして、今日の日の思いを忘れずに大切にしたいのであります。

諸君は学習、部活動、学校行事、清掃、奉仕活動、また仲間との学校生活において、本校の教育理念でもある「智慧と慈悲」の精神を実践・体現され、実に見事でありました。

本校での三年間、中学校からの諸君は六年間、公立学校では学ぶことのできない「祈りの生活」・「感謝の生活」・「奉仕の生活」等々、み仏のみ教えに接することができました。

未曾有の災害となった東日本大震災では、他の魁となる被災地の支援活動に懸

命に取り組み、奉仕の輪を広げることに大いに貢献しました。それらの生活・実践は、いつの日か、諸君の人生の中で貴重な財産の一つになると確信しております。しかし、ある意味では高校生活は社会や人から見守られた環境の中で生活・学習でもあったことを、心して下さい。

創立者野口周善先生が、昭和十五年の卒業式で生徒にむかつて話された言葉は「人生航路の難は、向かう山にあらず、向かう川にあらず、ただ人情反復の間にあり。世間は厳しい。謙虚にたくましく」であります。人情反復は、人の心の変わりやすさを言います。人生につきまとう厳しい世間、どう立ち向かうかと言えば、他人を先に立てる謙虚さであり、同時に逆境に面してたじろがない不屈の逞しい精神力であるという教えであります。味わって糧にしていきたい。

諸君への餞に私の好きな言葉を贈ります。これは明治、大正、昭和と活躍された陶芸家の河井寛次郎氏の言葉です。

「過去が咲いている今

未来のつぼみで
いつばいな今」

この言葉のように、自分で蒔いてきた種によって今の自分がある。今の私の姿がある。これは誰の責任でもなく、気がつかなかったけれど自分で選んで育ててきた姿である。蒔いた種とは考え方や、生活の仕方、学習、努力、行動などすべてです。そして私の未来に對しては、今、自分で知らず知らずにつくっている。であるならば、意識して善い未来づくりの種をまかねばと思います。

諸君、「未来のつぼみでいつばいな今」です。

本学園は昨年の四月二十五日に百周年を迎えました。諸君は一世紀の歴史のファイナーレを飾る記念となる卒業生です。社会に出て大いに世の光になって欲しいのです。

創立以来、私達の願いは本学園に縁あった青少年が、豊かにこの国を支えてくれることであります。卒業生の諸君これからが真の人生航路の船出です。我が学園の卒業生として矜持を持ち積極進取の精神で多くのことを学び、感謝と喜び

と祈りを持って、社会のためにお役に立てる人に成長してくれることを期待いたします。

結びになりますが、保護者の皆様、お子様のご卒業誠にありがとうございます。

皆、様々な困難を乗り越えてこのように立派に成長しました。この姿を皆様とともに喜びたいと存じます。また、本校教育推進に格別なご協力を賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

多くの皆様に衷心より感謝申し上げます。

合 掌

平成二十七年三月三日



卒業生への餞のことば

三年生がそれぞれの進路に向かって旅立ちます。そんな三年生に対する餞のことばを学年主任の先生にいただきました。

第三学年男子部主任

須藤 康雄



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。ご家族の皆様もさぞかしお慶びのことと存じます。

皆さんは思い出のたくさん詰まった母校を巣立ちます。これまでの人生を支えてくれた家族や先生方、先輩諸氏、友人への感謝を忘れないでください。そして、これからの人生を、正直にまっすぐに、精一杯歩いていってください。

時には立ち止まる時もあると思います。その時は、後ろを振り返ってみてください。そこには、これまでの自分を支えてくれたみんなの笑顔があります。立ち止まった若者が再び歩き出す原動力は、そこにあるよ

うな気がします。

私が小学生の頃の話ですが、祖母や大叔母が、俳句の会を通して交流のあった『相田みつを』さんから色紙を戴きました。そこに書かれた詩が、今も私の人生の指針となっています。

花を支える枝

枝を支える幹

幹を支える根

根は見えないんだなあ

みつを

この色紙は今でも祖母の部屋に掲額してあります。六十歳を迎えた私ですが、みつをさんの独特の文字が心に刻まれています。

私は、昭和五十二年の四月、伝統ある樹徳高等学校に奉職し、再び相田みつをさんとのご縁を結ぶことができました。卒業される皆様も、これから良きご縁を結ばれ、今後の人生に活かしていきましょう。

最後になります。次の百周年に向けて始動した母校には、皆さんの力がぜひ必要です。これからの協力

をお願いして、卒業生への贈の言葉といたします。ご健康に留意され、ご活躍されますことを、心よりお祈り申し上げます。

第三学年女子部主任

内田 富明



ご卒業おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。皆さんは、これまでに本校で様々な力を身につけ、今、新しい航海へと旅立とうとしています。

皆さんが本校で培った力とはどのようなものか。私はその一つに、「良い習慣を続ける力」があると考えます。朝のHRでは必ず「信条」と「樹妙」を、帰りのHRでは「六省」を唱和します。「信条」では共生や奉仕、学問の大切さを確認し、その実行を誓います。

「樹妙」を読んで、自身になぞらえて内省します。「六省」では、一日をきちんと過ごせたかどうかを振り返ります。そして、HR後には丁寧に清掃を行います。

皆さんはこれらを三年間の一日も欠かさず、ご飯を食べるのと同じくらい当たり前に行っていました。その教えは、皆さんの心の奥深くに根付いているのではないのでしょうか。また、同時に「良い習慣を続ける力」も身につけていると思います。

私は、朝入浴し、湯船につかっているときに、洋書を読むことにしています。一日に三ページですが、一カ月では約百ページになり、英文を読むことへの抵抗感が薄れます。それどころか、読み進んでいくうちに夢中になり、原文で読むことが楽しくなります。入浴後は腕立て伏せ、腹筋、背筋の運動を行うようにし

ています。その結果、筋力の衰えを多少は抑えられているようです。

こうした例は些細なことですが、皆さんの周りの多くの人がそれぞれ「良い習慣」を積み重ねることによって、少しずつ実力を向上させ、人間的に成長し、結果として人生を充実したものにしています。皆さんには、本校で培った「良い習慣を続ける力」があるはず。何を習慣とするかを十分に考え、しっかりと決意し、その実践を積み重ねることで、実り多い人生を歩んでいってください。



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」3月予定

- (1) 販売実習
7日(土)、14日(土)、21日(土)
各日ともに10時～16時
・相田みつをグッズ
・東北復興支援物産品
- (2) アートスクール「編み組み教室」
主催 野村ナナ子さん
4日(水)、18日(水)
- (3) 七草ゼミナール塾 主催 上野文雄さん
25日(水)

- 4月より星野富弘美術館の作品を販売予定
- 東北復興支援商品、多数入荷しました。
コンソメスープ・ホルモン・サンマの缶詰など
ご来店お待ちしております

卒業を迎えて

自分を高める

三年J1組 水田加奈
(桐生中央出身)



少林寺拳法に始まり、少林寺拳法に終わった三年間、少林寺拳法に助けられ、少林寺拳法に育ててもらった高校生活だった。

樹徳には入学できたが、三年前の私には、目標と言えるようなものは何もなかった。このままではいけないと思いつつも、選択肢すら見つけれずにいたのである。少林寺拳法部の体験入部のポスターを目にしたのはその頃だった。私はふと興味を抱いた。そして、体験入部に足を運んだ日が、少林寺拳法漬けと言うべき日々の、記念すべき始まりとなったのである。

あの日、監督の話を聞いて強く感動した私は、その場で、とてつもなく大きな目標を持った。「全国優勝」をすることである。当然ながら、一年生の頃は、監督や先輩の指導についていくのが精一杯だったが、二年生からは、組演武の相手となった同級生と切磋琢磨し、休む間も惜しんで練習し、休む間も惜しんで練習し、監督やコーチとぶつかることもあった。そして、努力を裏切らない結果が出た。関東大会での優勝である。さらに、高校における最後の大会では、目標としてきた全国優勝はできなかったものの、全国五位に入賞することができた。勝利の喜びの中で、ここに至るまでの汗と涙の日々が蘇り、周囲の人たちへの感謝の思いが溢れた。

「自分の価値を下げるな。価値を高める努力をしな。」これは、尊敬する先輩が、私に掛けてくれた言葉だ。この言葉によって、私は、

樹徳高校における生活の全てを自分にとって価値あるものにしようと決心することができた。そして、まず取り組んだのが「挨拶」だった。挨拶を選んだ理由の一つには、少林寺拳法が礼を重んじる武道だということもあったが、積極的に明るく挨拶することの効果は非常に大きかった。それは、多くの人との関係を良好にし、高校生活をいっそう充実したものにしてくれたのである。

私にとっての「樹徳高校での三年間」は、「文武両道」ができる充実した場所であり、最高の時間でした。そして、多くの先生のご指導に導いていただきました。私は下山先生と小野先生のもとでバスケットボールを学ぶために、樹徳高校に入学しました。毎日の練習はとても厳しく、試合では連携プレイが上手いかわず、時には先生に叱られることもありましたが、それでもバスケットボールが楽しくて、技術を磨きたいと思っていました。そもそも先生方に叱られるというのは、成長を期待して下さっているからこそであり、叱られなくなれば諦められたものと思います。無我夢中で頑張っていました。

世話になりました。一年生では、部活動の顧問でもある下山先生、二年生では保科先生、三年生では長谷川貴久先生と、どの先生も非常に熱心にご指導くださいました。中でも三年生の長谷川貴久先生は、クラス全員の進路を本当に熱心に考えてくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。長谷川貴久先生はテスト前になると忙しい中でも空き時間を作り、勉強を教えてくださいました。生徒に対して、とても熱心な先生方に出会えたからこそ「文武両道」ができたのだと思います。

私は大学に進学し、樹徳高校で自分なりに達成できた「文武両道」を改めて大学での目標に掲げ、四年間を頑張っていこうと思います。仲間たちとはそれぞれ別の進路に向かって進むことになりましたが、この三年間を私は決して忘れることはありません。「樹徳高校での三年間」は私にとってかけがえのない最高の三年間でした。

樹徳高校での三年間

三年J3組 味戸将太
(太田西中出身)



この経験は、私をプレイヤーとして、また人としても大きく成長させてくれたと感じています。そして、あの仲間たちとボールを追いかけていたことが、本当に良かったと思います。また、担任の先生にもお

今月の法語

文は人なり 言葉も人なり

ミャンマー学校建設プロジェクト

開校式に出席しました

慈愛の心のリレーがいよいよ形になりました。
マイत्री基金で建設された学校の開校式に、生徒
二名が出席しました。その報告です。

「当たり前」が「当たり前」 ではないこと

二年K組 高橋 優輝
本校の百周年の記念事業としてミャンマーに学校を建設し、その開校式に出席しました。開校式が無事終了したことを皆様にご報告申し上げると共に、ご協力に深く感謝致します。

新校舎は経済首都ヤンゴン市街から車で約一時間、東ダゴン区にあるイエイエッター寺子屋小学校にあります。付近には農村地帯が広がっています。学校に到着すると、澄んだ目を輝かせた子供たちが、花束を持って待っていてくれました。テープカットから始まった開校式。青空へ舞い

上がった風船に子供たちの明るい未来を祈りました。式は法要・挨拶・記念品贈呈と続きます。本校の代表として、校舎には慈愛の心



が込められていることを伝えることができました。寺子屋小学校の先生からは感謝の言葉を頂きました。校舎は、

村の集会所としても使われるそうです。その後の交流会では日本の遊びを紹介し、現地の

子供たちは歌と踊りを披露してくれました。子供たちの笑顔に包まれた、とても温かい開校式でした。

開校式で現地の子供たちと接し、私は強い衝撃を受けました。それは「当たり前」と思っていることは実は「当たり前」ではない、ということに気づいたことです。教室には長椅子が三十脚程度あるだけです。その椅子に子供たちは肩を寄せ合って座っています。机はありません。勿論エアコンなども。その他、私たちの学校に当然あるべきはずの物は何もないのです。でも子供たちは、毎日の授業を喜んで受けているので



す。私たちは整った環境の中でも「喜んで」授業を受けることは少なく、不足を嘆いていることが多いのではないのでしょうか。不足なのは「物」ではなく「感謝する心」だったのです。こんな当たり前のことに今まで気づかずいたのです。

経済発展が著しいミャンマーですが、寺子屋の子供たちが十分な教育を受けるには、まだまだ時間がかかりそうです。これからこの支援活動に一層尽力したいと思っています。

百円の重み

四年二組 戸崎 萌花

ミャンマーの山間部で、道路工事に従事していた小学生を見かけました。「彼らの日当は百円です。」というガイドさんの説明。「えっ、百円」思わず絶句しました。一日中汗水垂らし、泥だらけになって、百円。なんと辛いことか。市街地の乗り合いバスの代金が百円。この子の家はどこだろう。少し行くと水汲み

に坂道を下ってきた本当に小さな子供たち。一滴の水も貴重です。

ミャンマーはアジアの発展途上国と言われている。軍事政権から解放され、経済活動は活発になりましたが、逆に都市部と農村部や山間部の格差が広がっています。政府も補助をしています。政府も補助をしています。開校式に贈られた鉛筆やノートも、子供たちは本当に大事そうに抱えていました。しかし、これを売らざるを得ない子供たちもいると聞き、ショックを受けました。売れたお金が家族の生活を助けるのです。開校式に参加した子供たちのキラキラと輝いた目は希望に溢れていました。私はその子供たちを支援してあげたいと、心の底から思いました。この子供たちの夢が実現できるように、と。平成十三年から続いた掘金活動は「学校建設」という大きな実を結びました。安全な水道水から水を飲むことが出来る私たちです。毎月百円の掘金を更に続けられ、もっと大きな支援に繋がると実感しました。

一貫校 中学校 だより

節分会

二月三日、大善寺にて節分会が行われました。課外学習として一年生も参加。中国雑伎団の演舞に魅了され、盛大な豆まきに心を弾ませました。自然と溢れ出る笑顔に、たくさんの方々が招かれたことでしょう。



「大善寺節分会に参加して」

一年一組 成塚 花音
私は大善寺節分会では豆を撒く係でした。福銭、お菓子など様々なものがありました。先生や友達だけでなく、一般の人たちにも福をあげることができました。

た。

豆まきの前にあった中国雑伎団の方たちのパフォーマンスはとても迫力があり、かつこよかったです。顔が何度も変わるののはテレビでは見たことはあったのですが、本物では見たことがなかったのでもとても驚きました。獅子舞はとてもかつこよかったですが、舞台の上には来てくれなかったのでも少し残念でした。今回の節分会はとても楽しく幸せな気持ちになりました。校長先生やその他の関係者の方々に感謝したいです。そして来年の一年生にもぜひ楽しんでもらいたいです。

第十三回 立志式

二月五日、二年生四十六名が立志を迎えました。まだまだ自分の思いが優先してしまいがちな中学二年生ですが、この日に向けて気を引き締め、「ひとつの変化」を遂げようと頑張っていました。



してきました。ほどよい緊張感に包まれる会場から下さった全ての方々への感謝の気持ちが伝わってきました。



「記念講演」
『一歩踏み出せば
人生は変わる』

講師 喜多川 泰氏



立志式の記念講演では、多くの著書を出版し活躍されている喜多川泰先生をお招きし、ご講演頂きました。将来の夢や目標を見据えた生徒たちに向けて、『目的』をもつことの大切さを説いて下さいました。どのような人にな

なりたいかこの質問は、将来の夢いわば『就きたい職業』を考えしてきた生徒にとって、思いもよらぬものだったことでしょう。そして多くの生徒が自らの答を導くことに戸惑いを覚えたようでした。そして生徒の心に残った

もうひとつの言葉。

目の前の人を

幸せにしよう

些細な気配りや言葉掛けで人の心は温かくなるものです。相手を幸せにすること、笑顔にすること、それらは必ず自分自身にも幸せを呼び込むことに繋がります。この言葉を胸に一日一日を過ごしましょう。

◆第六十一回

堀マラソン大会

二月八日に実施された堀マラソン大会に運動部の生徒が参加。陸上部の生徒が好成績を残しました。

《5 km 男子中学生の部》

- 4位 赤坂 匠(一一)
- 8位 長尾光生(一二)
- 11位 友野公貴(一一)
- 19位 阿部紘大(一二)

◆第二十四回

ぐんま県民マラソン ジュニアロードレース

一年3 kmの部で、陸上部二名が入賞しました。

- 1位 赤坂 匠(一一)
九分三十秒
- 9位 友野公貴(一一)
九分五十四秒

幼稚園だよい

一年間の成長と進級・卒園

総仕上げの三月

一月往ぬ、二月は逃げる、三月は去る。冬の終わりが春先を流れる時間の早さを言い表していますが、言葉のとおり二月もあつという間に逃げ、年度末の三月を迎えました。

二月は大善寺での大節分会、桐生南ロータリークラ



ねはんえでのじゅずくりです

ブから学校バスキーボード寄贈を受けての演奏発表、シニアハウス「えがお相生」訪問演奏、お誕生会、大善寺での涅槃会、お茶のお稽古と、あつという間に過ぎ去りましたが、この一年を振り返り、子どもの成長の早さにも驚かされます。

年齢による気付きの視点の違いから「あ！あつた」と気付いたり「やってみて気付く」に育つ三歳児。「やつてみて」から「こんなことができるのでは？」と気付くことができる四歳児。さらに「新しい方法に気付き、こんなことができる！」と成長する五歳児。

一年の成長を振り返ると、年少さんは、おむつだった子も、今はほとんど失敗もありません。苦手な野菜にも挑戦した

り、給食もたくさん食べられるようになりました。また、お着替えも一人でスムーズにできるようになるなど、基本的な生活習慣が身に付いて、今では語彙も増え、伸び伸びと園生活を送っています。

年中さんは、製作活動など苦手としていたことに意欲的になり、自分で最後までがんばれるなど、自信をもって取り組むようになりました。また、友だちとの関わりでは、相手の気持ちを考えて行動したり、年少さんには思いやりを持って接する場面が多くなりました。

年長さんは、個々に行動するのでなく、クラスの皆で協力し、まとまって一つのことをやり遂げられるようになりました。友だち同士でけんかしても、自分の意志を通すだけでなく、相手の意見を聞いたり受け入れたり我慢ができるようになり、我儘がなくなるようになりました。「わからない・できない」をすぐ言わないで、製作等では最後まで自分の力で仕上げられるようになりました。

このように、子どもたちが身に付けたことを、再確認し、進級・卒園に向けて、総仕上げの三月にしてきたと思います。



えんそうをきいていただきました

人間の心を育む 家庭・親の愛

医師である鎌田實氏は「人間の芯がちゃんとつくられるためには、やっぱり無条件で抱きしめられる、愛された時期が少しでもあることが、大事なのだと思います」。そして、「虐待された子にはその時期がないのだ」とも、さらに、「じじばばの愛情も成長を応援している」と述べています。（読売新聞・編集手帳より）

子どもたちの園生活（遊び等）を見ると、樹徳幼稚園の子どもたちは、ご家庭での愛情をたっぷり受けて、素直にまっすぐ成長していると感じます。そんな

子どもたちを預かり、しっかり育てることの責任を鎌田先生の言葉から痛感しています。

新年度に向け、保育の充実や質の向上に一層努めるとともに、子どもたち一人ひとりの、家庭で育まれた「人間の芯」を、大きく伸ばしていきけるよう、教職員一一致協力して、指導の充実に努めてまいります。ご支援・ご協力を、よろしくお願いいたします。

幼稚園長 瀬谷 茂

入園願書受付中

四月入園児、満三歳入園児ともに、随時受け付けております。（二歳児・転入園は相談に応じます）

●預かり保育は十八時三十分まで。働いている方も安心です。

●送迎は園バスで安心・安全です。

●平日はいつでも見学できます。

●お問い合わせは樹徳幼稚園までお気軽にどうぞ。

住所 桐生市広沢町3-4475
電話 0277(53)5571

○詳細はホームページも！

<http://www.jufoku.ed.jp/kinder>

3 月（智慧）の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貫 校	幼 稚 園
1	日			
2	月	卒業式予行演習 予餞会	早朝自主学習(～9日)	リズム(全)・線(年少)
3	火	卒業式 雛祭り	高校卒業式 雛祭り	お別れ遠足(桐生が岡動物園) 雛祭り
4	水	卒業式後片付け マイトリー基金抛金日		英語(全)・文字と数(年長)
5	木	学年末試験①	学年末試験①	お別れ会練習 体育(全)・文字と数(年中)
6	金	学年末試験②	学年末試験②	お別れ会(13:00～)
7	土			
8	日			
9	月	学年末試験③	学年末試験③	リズム(全)・線(年少)
10	火	学年末試験④ 市街地清掃(通算82回目) 独居老人宅清掃	計算オリンピック②	園外保育(わたらせ渓谷鉄道乗車体験)
11	水	防火避難・初期消火訓練	1 学年保護者会	お茶のお稽古(発表会) 英語(全)・文字と数(年長)
12	木		2 学年保護者会	体育(全)・文字と数(年中) 法人役員会
13	金		3 学年保護者会	
14	土	職員出勤日		
15	日			
16	月	LHR	朝礼・挨拶運動	リズム(全)・線(年少)
17	火	担任宛成績提出		卒園式予行演習
18	水	第3回入学手続(13:00～)	グループワーク研究発表会	第62回卒園式(10:30～)
19	木	視聴覚教室 教務宛成績提出 女子制服アフターサービス	視聴覚教室 マイ弁当の日	預かり保育(～25日、土日除く)
20	金	出欠統計提出		
21	土	春分の日		
22	日			
23	月	漢字テスト⑥ 学年末一斉指導 成績会議		
24	火	終業式 大掃除	終業式 大掃除 卒業証書伝達式	
25	水	春季校内特別課外授業開始 1K学習合宿(～28日) 奨学生審査会③	春季特別補習(～27日)	3 学期修了式
26	木	総務会 学籍整理・年度末事務(～31日)		春休み(～4月7日) 在園児預かり保育(～31日、土日除く)
27	金	教科主任会(10:00～)		
28	土			
29	日			
30	月			
31	火			

※ 2日は安全点検日です。また、5日は授業料納入日です。



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671
〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262
〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

発行責任者 野口 秀樹
印刷所 太陽印刷工業株

夢は大きく 根はふかく